

以

前私の友人に有名な報道写真家のライカマイクド・ダグラ
ス・ダンカン氏が、ライカが彼のために特製のライカ
を開発してつづけてくれたという話を聞いたことがある。
アメリカのモダン・モーガン社から出版されたライカイラス
トレイテッドガイドⅢの77PにライカのM3DとM2Pの写真入り
次のような記事が出ていた。

「一九五五年、アウツウエラーはオートジャーナリストダンカン
のために四台特別のM3ボディをつくった。これらのカメラに
はM3Dと彫刻され、その後番号がつけられ設置にラビドワイ
ンダーのライカマイクドがつけられた。また唯一の例外として、
一台がM3Eという名称でアルフレッド・アイゼンスタットの
に用意されたという。M3DもしくはM3Eは後年までこの
M2P（一九五七年の準備段階としてつくられたものである。この
M2Pは合計四〇五台製造されたというところである。」

これを見ても、これはライカ研究室の川口・夫氏もよそ来る銀
一ココの店長Yさんであった。
「M2Dを一台手に入れようかな」ととYさんに冗談言ってい
たのである。

井本伊兵衛先生がM2Pを持っておられたのを見たことがある。
一時シニアイックカメラのコレクターを志したところある私はラ
イカB型を手す前にも手渡して迷ったことある。

つい最近ダンカン氏が来日した時に「ライカM3Dをお持ちだぞ
うか、その一台を特来私に譲って貰えないでしょうか」と話した。
「うん、四台持っているよ。コレクターが譲るといってくださるけど
絶対譲ってやらないんだ。」

しかしM2Pは八百あり、その中には全く新品もあるから欲しいけ
れば「上げようか」といつてくれた。
「いやM2Pを手に入るとチャンスはあるが私の欲しいのはM3D
です。」

「君とのさ合いは長いから速に一つ書いておこし」といつて
くれた。

勿論欲しいのには遠くないけど無理にという訳にはいかない。
それから一度日本にやってくる時、持ちまよとニコールフォ
コンファストの授賞式があった。

受賞者に祝辞をのべる時に彼はニコールクラブの創立者長岡正
男氏の肖像、日本光学小秋元社長として私を呼びよせ出席者の前て
私に箱を渡して聞けろと言った。

包装を破くとタンポールの手製の箱の中から夢に見たライカM3
Dがでてきた。

「二十年に亘る友情の印としてこのカメラをジュン・ミキに贈呈
する」といつてくれた。

全く「リリウムカムトルール」という心地であった。
ライカM3D-1、レンズはメタクルックス50ミリD1がっついて
いる。このメタクルックスには、センチ程の棒がついており、ピン
トを合わせる時に2メートルからのまがすばやくピント合わせが
できるようなっている。

M3機体がフィルムカウンターはM2の手動式でセルフタイマ
ーもレンズ交換フィルム手動レバーもついていない。

ところが私が頂戴したM3D-4の写真が前記のライカマイクド
トレイテッドガイドⅢに出ていた。ダンカン氏にきくと「誰にもこ
のカメラの写真集撮させたことがない。もしかするとベトナム戦争
の時トレンケン湾のクアベト艦隊上陸の取材中からカメラ
が海中に落ちた。そしてすぐ真水で洗ったから拭いた上カリ
ンの中に落ちたがすぐ動かなくなった。そして一九六七年九月他人に
頼んで香港のライカシニエットに送り修理して貰った。その時に撮
影されたのかも知れない」と語った。

彼の著「英雄なき戦争」の10Pから43Pにはこのカメラで撮影し
たドラマイックな写真が掲載されている。水にひたされたため静電
気が起き、そして海水につかってフィルムに化学的変化がおきてい
る。全くドラマイックな活躍をした歴史的なカメラを贈られて感
動している。友情とはありがたいものである。



VIVA! ライカM3D-4

三木 淳 / 写真家



撮影 三木 淳